

香川県地域包括ケアシステム推進委員会

はじめに

各士会会員の皆様には平素より当委員会における活動にご理解、ご協力賜り、誠にありがとうございます。令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う移動や活動の制限のため、事業の縮小や中止などが相次ぎました。リモート形式での研修会が主となりましたが、リモート形式の便利さや対面で実施できないことへの課題なども見えてまいりました。少しずつWithコロナが進み、次年度は対面での研修会についても企画できると思います。香川県内では我々セラピストへの期待がどんどん大きくなってきております。会員の皆様の「地域包括ケアシステム推進」へのご理解がますます進み、積極的に事業参加していただけることを期待しております。

さて、香川県地域包括ケアシステム推進委員会では、地域包括ケアシステムの推進のために地域で活躍できるリハビリ専門職の育成や、香川県から委託を受け地域住民向けの認知症予防キャラバン事業への協力等、多くの活動を行っています。

本紙にて、香川県地域包括ケアシステム推進委員会の令和4年度の活動についてご報告いたします。

01

地域ケア会議推進リーダー導入研修会

令和4年8月4日(木)、5日(金)の両日、Zoomを用いたリモート形式にて地域ケア会議推進リーダー導入研修会が開催されました。

本研修会では、①地域包括ケアシステムについての概要、②地域ケア個別会議の位置付け、③求められるリハビリ専門職の役割等により地域ケア個別会議についての考えを深め、また④実際の書類等を用いて模擬会議を行い、会議の流れや提案の仕方等を経験しました。

また、研修会終了後には希望者・講師を交えて座談会を開催し地域の現状や地域ケア会議の現状や課題などについて本音の意見交換ができました。

現在、香川県内でも「地域ケア個別会議」が広く展開されていますが、検討内容や求められる役割は日々変化しています。地域の期待や要請に応えられるよう、交互も研修会を企画しています。初めての方はもちろん、新たな知見を得たい方にも実りある研修会となるよう準備し、お待ちしております。

参加者:8月4日 29名(PT:13名、OT:11名、ST:3名、学生:2名)
8月5日 21名(PT:9名、OT:8名、ST:2名、学生:2名)

令和4年11月21日(月)、22日(火)の両日、Zoomを用いたリモート形式にて介護予防推進リーダー導入研修会が開催されました。

本研修会では、①介護予防事業に関連する行政組織・関連団体と福祉計画、②介護予防事業の展開方法、③介護予防の実践、④介護予防事業の計画立案について講義、グループワークにて学びました。

積極的な学びの場となりましたがやはり、対面での実習を強く望む声も多く聞かれました。現在、コロナ禍にて県内の多くの通いの場や介護予防関連の教室等が中止や規模が縮小されており、高齢者の身体・精神面の低下が危惧されています。コロナ禍での開催方法の検討やコロナ禍開けに動ける体制づくりを進めていく必要があります。

実際の介護予防事業の関わりがイメージしにくい方、興味はあるけれどどうすれば良いかわからない方は、次年度の研修会に是非とも参加をお願いします。

参加者:11月21日 20名(PT:12名、OT:4名、ST:4名)

11月22日 17名(PT:10名、OT:5名、ST:2名)

令和5年1月27日(金)、Zoomを用いたリモート形式にて第8回香川県地域リハビリテーション合同研修会が開催されました。

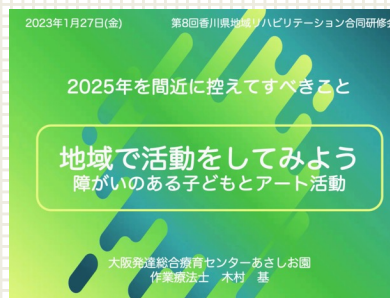
今年度は、「2025年を間近に控えてすべきこと 地域で活動してみよう～障がいのある子どもとアート活動～」をテーマに大阪発達総合療育センターあさしお園、作業療法士の木村基先生にご講演いただきました。

ご講演では、木村先生ご自身のライフワークでもある「アート活動」を通じて障がいのあることも達やその家族との関わりや成長について、また事業として取り組むことができるようになるための課題などについて実践例を交えながらお話しいただきました。

超高齢化社会となる2025年を間近に控え、地域包括ケアシステムの推進が叫ばれておりますが、子どもから高齢者まですべての人が自分らしい生活を営むことができるような社会が望まれています。我々セラピストが今、何ができるのか？型にとらわれず自分自身の特技や趣味に専門職としてのノウハウを盛り込むことで地域包括ケアシステムの一端を担うことができる可能性があるのではないのでしょうか？



木村基 先生



参加者:35名(PT:16名、OT:13名、ST:5名、学生1名)

令和4年10月3日(月)、Zoomを用いたリモート形式にて令和4年度認知症予防運動指導者養成研修会(基礎編)が開催されました。本研修会は、香川県から委託を受けて平成28年度より実践している認知症予防キャラバン事業で活躍していただく講師の養成、及びリハビリ専門職の知識・技術の向上を目的に毎年開催されています。

本年度も国立長寿医療研究センターより島田裕之先生を講師にお迎えし、認知症の病態・疫学・MCIなどに対して基礎的な内容や、島田先生の研究実績を含む科学的根拠を踏まえて、認知症予防に向けて促進したい生活習慣として運動習慣の継続によるMCI改善や予防効果についてのお話を聞くことができました。また、運動習慣だけでなく、栄養や社会交流の大切さオンライン通いの場アプリの紹介などについても併せてご講演いただきました。



島田裕之 先生

オンライン通いの場アプリ



参加者:57名(PT:24名、OT:23名、ST:5名)

令和4年10月21日(金)、Zoomを用いたリモート形式にて令和4年度認知症予防運動指導者養成研修会(実践編)が開催されました。

本年度も国立長寿医療研究センターより土井剛彦先生を講師にお迎えし認知症予防の基礎研究からエビデンスについて、コグニサイズの実践についてのみならず、教室など通いの場の運営に関しての流れにそった具体的なご講演をいただきました。



土井剛彦 先生

参加者:51名(PT:29名、OT:20名、ST:2名)

令和4年7月10日(日)、Zoomを用いたリモート形式にて香川県長寿社会対策課主催、令和4年度専門職対象地域ケア会議にかかると研修会が開催されました。本講習会では、当委員会へ協力依頼があり、当委員会委員が講師及び実習ファシリテーターを務めました。

PT・OT・ST・薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士といった地域ケア会議における助言者として派遣依頼のある多職種が参加し、地域ケア会議の実際や各専門職として求められる役割について学びました。また実習では、各専門職からの助言の内容から学ぶ内容も多く、1人の対象について多職種で考えることの大切さについて学ぶことができ、とても有意義な研修会となりました。

参加者:42名(PT:6名、OT:5名、ST:6名、薬剤師:10名、管理栄養士:6名、歯科衛生士:8名)

香川県では認知症予防に向けて、「運動・栄養・社会交流の三位一体プロジェクト」を推進しています。県からの委託事業である認知症予防キャラバン事業では、今年度もリハビリ専門職が介護予防教室、長寿大学、敬老会など高齢者の集いの場に講師として派遣され、認知症予防運動(コグニサイズ)を実践・指導いたしました。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の完成予防対策を徹底し、講師・参加者が安心かつ安全に参加できるように務めました。

参加者や依頼元である地域包括支援センター担当者からは、例年通り好評の声が多く得られました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域の高齢者の活動性の低下、体力・認知機能面の低下を心配する声も多く挙がっております。我々、セラピストの継続した活動や支援が今後必要とされてきます。会員の皆様のご理解・ご協力を今後もよろしくお願いいたします。

令和4年度実績

★派遣依頼 72件 ★実施件数 69件

★参加者数 781名

★派遣講師数 75名

ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

実際の様子



団塊の世代が後期高齢者を迎える2025年を目の前にし、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで送ることができるよう推進される“地域包括ケアシステム”の実現に向けた手法の一つに「地域ケア会議」があります。

地域ケア会議は、地域包括支援センターまたは市町村が主催し、設置・運営する「行政職員をはじめ、地域の関係者から構成される会議体」と定義され、地域の医療・介護に関わる多職種が参加します。参加者がそれぞれの専門知見を共有しながら、よりよい支援内容について検討していくことで、地域包括ケアシステムの整備・推進につなげていきます。

地域ケア(個別)会議の目的は①個別課題の解決、②地域包括支援ネットワークの構築、③地域課題の発見があります。我々セラピストに求められる最も大きなことは「生活の視点に立った助言」です。具体的には、生活課題を引き起こす要因の評価、ICF等を用いて評価結果を分かりやすく伝えること、疾患を踏まえた生活行為の改善見通しとリスクを示すこと、対象者の有する能力を最大限に引き出すための支援を提案することなどが求められています。

香川県内でも各市町で地域ケア会議が定期的に行われ我々セラピストへ助言者として派遣要請があります。当委員会宛に届いた派遣依頼について会員の皆様にご協力をお願いすることがありますので、ご協力よろしくお願いいたします。

当委員会では“地域包括ケアシステム”、“地域ケア会議”について学ぶ機会を得られるよう毎年内容をアップデートして、地域ケア会議推進リーダー導入研修会、介護予防推進リーダー導入研修会をそれぞれ開催しております。積極的なご参加をお願いいたします。



派遣実績

令和4年度内に、香川県地域包括ケアシステム推進委員会事務局へ派遣依頼のあった地域ケア会議への派遣者数

- ・高松市・小豆島町 PT12名 OT24名 ST21名
- ・さぬき市 PT4名 OT4名
- ・琴平町 PT3名 OT2名
- ・東かがわ市 PT1名 OT1名
- ・三木町 PT1名 OT1名
- ・善通寺市 OT1名 ST1名
- ・丸亀市 PT1名
- ・観音寺市 PT2名 OT2名

ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。

令和4年12月18日(日)、ハイブリッド形式(リモート形式Zoomとレグザムホール多目的会議室「玉藻」)にて香川県地域包括ケアシステム学会第5回学術集会が開催されました。

香川県地域包括ケアシステム学会は、「地域包括ケアシステム」を香川県で推進し、向上させる目的で平成31年に設立されました。県内の行政・医療・保健・福祉・介護の職能団体、及び産業界、住民団体を含めた関係団体などが参加しており、相互理解と情報共有・発信、地域包括ケアシステムの意識を向上できる体制の構築を目指しております。

今回、第5回目となる学術集会は、香川大学が開催担当となり、「災害有事と地域包括ケア」をテーマに開催されました。PT・OT・ST士会からは一般演題にて各士会より1題ずつ発表されました。

現在、我々3団体でも香川JRATの運営準備が行われています。災害の少ない香川県ではありますが、ひとりひとりが有事の際なにができるか?どう動くべきか?知って置くことが大切です。

次回は令和5年12月17日(日)に開催される予定になっております。各士会へも一般演題への協力依頼がありますので、ぜひご参加、発表の準備をお願いできればと思います。



一般演題発表

- ・「香川県理学療法士会災害対策委員会の活動報告と今後の展望」
社会医療法人財団大樹会総合病院回生病院 PT 橋本 豊文 先生
- ・「多職種へ向けた福祉用具活用研修会の取り組み～職種を超えた連携の重要性～」
かつが整形外科クリニック OT 樋本 英司 先生
- ・「これまでの言語聴覚士による被災地支援報告の文献的考察」
香川大学医学部附属病院 ST 角谷 英樹 先生

ご発表いただいた先生方、ありがとうございました。

学会について

ご入会がまだの方はこの機会にぜひ会員登録をお願いいたします。



学会ホームページ



会員募集中(年会費無料)

昨年度に引き続き、香川県地域包括ケアシステム学会が香川県から委託を受けて、「香川県介護予防多職種連携推進事業」を実施いたしました。

本事業では、香川県栄養士会、香川県介護福祉士会、香川県歯科衛生士会、香川県薬剤師会、香川県理学療法士会、香川県作業療法士会、香川県言語聴覚士会からの各代表メンバーにてワーキンググループを設置し、香川県医師会、高松市医師会、香川県歯科医師会、行政関係者がアドバイザー役を担いました。

昨年度は①標準的な教材の作成②少数の「通いの場」でのモデル的な実践③先進地事例、優良事例等の調査(県外の事例)の3項目を実施し、それぞれの結果に対する検討を行いました。

今年度は、前年度の事業成果に基づき、①教材の改良とコンパクトな配付資料の作成、②県内、広範囲の「通いの場」における多職種メンバーによる講義(プレ実践)の実施、が主な課題に設定されました。6回の検討会議と10回のプレ実践、現地活動を繰り返すとともに、教材の説明予備資料の作製、派遣講師のための動画制作、プレ実践現場のための資料印刷と配付など、より具体的な「通いの場」対策も実施されました。

今後、県内の5つの医療圏ごとに組織された多職種での支援チームが主となり、各地域における介護予防を担えるチームとして活動できればと考えております。会員の皆様もお声がかかればぜひ積極的にご参加・ご協力をお願い致します。

介護予防教室の様子



各地区支援チーム責任者

- ◆ 高松地区:西日本ファーマシー 前田 匡史 先生
- ◆ 東讃地区:阪本病院 藤井 保貴 先生
- ◆ 中讃地区:丸亀市地域包括支援センター 川原 靖代 先生
- ◆ 西讃地区:三豊総合病院 合田 佳史 先生
- ◆ 小豆地区:老人ホームはまひるがお内海 藤井 洋 先生

編集後記

香川県地域包括ケアシステム推進委員会の『令和4年度活動報告集』をご覧くださいありがとうございます。

当委員会では、これまで香川県における地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域の要望に対応できる人材の育成や派遣事業等を行って来ました。士会員の皆様のご協力により、地域ケア個別会議への助言者派遣や認知症予防教室への講師派遣は年々増加傾向にあります。また市町からの相談件数の増加や県から新たな事業委託を受けるなど、委員会活動への理解や期待の高まりを強く実感しています。

一方で、相談の内容は、高齢単独世帯の増加や閉じこもり、また認知症をはじめとする多疾患の併存など複雑化しています。加えてコロナ禍で過ごす生活様式の変化により、対応力の低い高齢者等の健康感が挫かれている事も散見されました。そのため、地域の方々に活動することの重要性を理解していただくだけでなく、繋がる事への不安や不信を払拭し、健康感に加えて幸福感までが高まるような提案や支援の重要性を考えさせられる1年でもありました。

いわゆる2025年問題を目前に控え、私たちに「できる事」また「すべき事」は何でしょうか。今後も当委員会では、心と心を、人と地域を、地域とリハビリ専門職を繋ぐ一助になれるよう、研修会の企画や派遣事業の展開等を行っていきます。地域に関心がある方だけでなく、地域への関わり方が分からない方々のきっかけとして、当委員会の活動にご参加いただくと幸いです。

最期になりましたが、今年度も当委員会の活動へご理解とご協力をいただきました先生方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

香川県地域包括ケアシステム推進委員会
委員長 前田 匡史

香川県地域包括ケアシステム推進委員会活動報告集(令和4年度版)

発行:香川県地域包括ケアシステム推進委員会